

DOCUMENT Eye series 166

混合交通を観察する

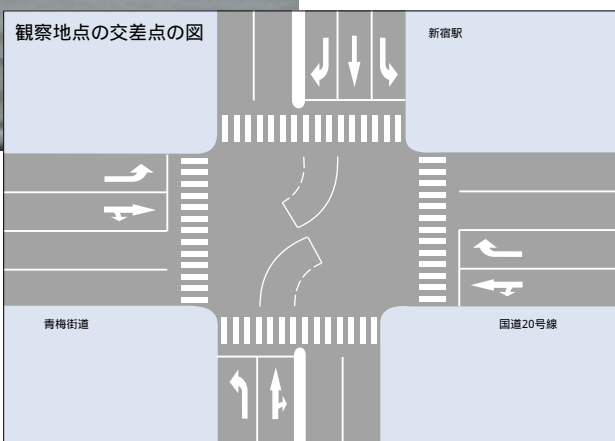
1時間に観察した1744台中 赤信号にもかかわらず交差点を通過した車両は10台

黄色で加速、赤信号になっても進入して交差点を通過しようとするクルマを観察する

WHY

ドライバーは信号を守っているか?

交差点で信号が黄色や赤信号に変わっても通過してしまうクルマを見かけたこ



写真上 / 赤信号で交差点を通過するトラック。歩行者用信号はすでに青になっている
写真左 / 前方が詰まっても前車に近づいて黄色信号や赤信号でも交差点に進入するクルマ

観察場所 / 東京都新宿区西新宿1-24-1付近
観察日 / 11月11日(火曜日)
天候 / 小雨
観察時間 / 15:30 ~ 16:30
観察者 / 4名



車両別の交差点通過状況

Table with 5 columns: 信号色 (青, 黄, 赤), 乗用車, トラック, バス, 二輪車, 合計. It shows the number of vehicles passing through the intersection under different traffic light conditions.

表中の黄色信号および赤信号での通過とは、それぞれ信号が完全に変わってから交差点内に進入した車両を意味している

WATCHING

とはなただろうか?あるいは、赤信号を無視して交差点に突入して走り去るクルマにヒヤリとさせられた経験はないだろうか? こうした信号無視が原因で引き起こされた出会い頭事故などの交通事故例は多く、信号機のある交差点内での出会い頭事故の多くが信号無視(構成率63.9%)によるものであった(平成14年版ヒューマンデータ 図で見る交通事故統計より)。実際はどうか、東京・新宿の信号機のある大きな交差点で観察してみた。

黄色に変わったのを見て、加速するクルマが目立つ

観察場所は高層ビルなどが建ち並ぶ東京・西新宿 JR新宿駅から近く、東京都庁やオフィスビルなどへの来訪者も多



黄色信号になってから加速して交差点を通過したクルマ

い。乗用車や路線バスのほか、荷物の搬入も頻繁に行なわれているためタクシーやトラックなども数多く見かける。

観察地点は片側3車線と片側2車線の通りがほぼ直角に交差しており、それぞれ右左折レーンが設けられている大きな交差点。交通量が比較的多い通りだ。

この交差点で、信号機の指示(青・黄・赤信号)に対する車両のそれぞれの通過状況について観察を行なった。観察の結果、1時間にこの交差点を通過した車両は全部で1744台。上の表のように乗用車(タクシー含む)が1248台、トラック192台、バス156台、二輪車(原付含む)148台だった。このうち黄色信号になってから交差点に進入した車両が90台、赤信号で交差点を通過した車両は10台も観察された。

PROPOSE

信号を守ることは最低限のルール

信号機や道路標識・標示に従うことは最低限のルールであるのだが、これを守らないドライバーは多い。

信号が青から黄色に変わったときに停止線で安全に停止することができない場合は、そのまま交差点を通過してしまうことになる。だが、黄色で加速して交差点に進入するのは危険を伴う行為である。とくに右折待ちの車両がいる場合、相手も同じく進入してくることがあるからだ。そして、赤信号に変わってから交差点への進入は、歩行者の保護を考えると、さらに危険である。

「大丈夫、行ける」というドライバーの判断ミスや自分勝手な解釈が出会い頭事故の原因となり、実際に信号無視で多くの事故が発生していることをドライバーは忘れてはならない。



黄色信号や赤信号になってから右折を開始するクルマ